

国立美術館キャンパスメンバーズに加盟

無料や割引で観覧

本学は今年度、国立美術館キャンパスメンバーズに加盟した。これは大学等を対象とした会員制度で、対象は、東京国立近代美術館（千代田区）、国立映画アーカイブ（中央区）、国立西洋美術館（台東区）、国立新美術館（港区）、国立工芸館（金沢市）。窓口での学生証または教職員証の提示で、所蔵作品展の無料観覧、企画展の割引が、何度でも利用できる。

国コミュ・根岸ゼミが利用、討論

この制度を利用し、国際コミュニケーション学部根岸徹郎ゼミでは今夏、神田キャンパスから歩いて15分ほどの竹橋にある、東京国立近代美術館を訪れた。

根岸ゼミのテーマは「想像力」。全員で一つのテーマに、さまざまな角度から取り組む学修が軸の一つになっている。後期のゼミでは、この時の鑑賞を題材の一つとして、ディスカッションした。



美術館での体験を語り合う根岸ゼミの学生

散歩するように美術館へ

根岸教授はこう話す。「同じ美術館でも、ある時は展示室をひと通り歩き、ある時は一つの作品の前で立ち止まることもある。何度か気楽に訪れることができるからこそ、自分なりの鑑賞の仕方を見つめられる。近くの野原を散歩する感覚で美術館に行

き、森の空気を吸い込むように絵の前に立つ。そんなふうになれたら、素敵ですね」。キャンパスメンバーズ制度は、美術館への入場機会を提供するだけではない。自分や他者を見つめ直す機会も生み出している。芸術の秋、ぜひ活用してみよう。



神田キャンパスから近い東京国立近代美術館

新たなビジネスアイデアを話し合う岩田ゼミ生と済州大生ら



済州大生と地域ブランド議論

経営・岩田ゼミ

地域資源のブランド化について学ぶ韓国・済州大学の学生グループが7月24日、生田キャンパスを訪れ、経営学部・岩田弘尚ゼミの授業に参加した。日本における地域ブランド戦略や産学連携モデルを学ぶとともに、ワークを通じてゼミ生と親睦を深めた。

済州大学の学生グループは、ブランド戦略などについて理解を深めるため、研修先として岩田ゼミを選び、来学した。授業は三部構成で、は

じめに岩田教授が、岩田ゼミと約10年にわたって協業する長野県の生ハム工房「ジャンボン・ド・ヒメキ」のビジネスモデルを説明した。「自然資本」「インタンジブルズ（無形の資産）」といったキーワードを挙げ、顧客価値やイノベーションを創造するために必要な事柄・方法を解説。地域資源をブランド化する際のヒントを学生たちに示した。

最後に、済州大生、岩田ゼミ生、本学韓国留学生会の有志が混成グループをつくり、ワークに取り組んだ。さまざまな言語が飛び交うにぎやかな

で登場。実務的な観点から「土地を読み、技術を磨き、関係を育て、その価値を文化として次の世代へ渡す」ことの重要性を訴えた。

雰囲気のほか、済州島の自然資本とインタンジブルズを組み合わせた新ビジネスを考えた。久高麻想さん（3年次）は、「普段は国内の地域創生をテーマに活動しているが、海外に目を向けて、済州大学の学生と意見交換できたのは新鮮だった。さまざまなアイデアを出し合い、ひとつの提案にまとめることができたのは良い経験になった」と感想を述べた。

経営・森内ゼミ × (株)サトー 東南アジアでの成長戦略を報告

経営学部・森内泰ゼミナールは、株式会社サトーとの産学連携プロジェクト「海外事業研究プロジェクト」を実施。8月5日、最終報告会で東南アジアでの成長戦略についてプレゼンテーションを行った。



最終報告会でプレゼンする森内ゼミの学生たち

同社は自動認識ソリューション大手で、広く海外展開を進めている。プロジェクトには森内ゼミの3、4年次生11人が参加。2チームに分かれ、

インドネシアおよびベトナムにおける成長戦略の立案に取り組んだ。同社の事業や経営課題を題材に市場調査や事業分析を行い、新規事業を含めた

提案を作成した。

最終報告会には、サトーのグループCEO小沼宏行氏ほか経営陣が出席した。学生の発表に対し、経営陣から実務的な観点に基づく質問やフィードバックが行われた。学生にとって、企業のトップマネジメントと意見を交わす貴重な機会となった。

自転車通学安全キャンペーン ルール再確認しマナー向上を

10月5日から9日までの5日間、多摩警察署の協力のもと、「自転車通学安全キャンペーン〜ルール再確認とマナーアップ〜」を生田キャン



駐輪場で注意を呼び掛けた

スで実施した。自転車利用時の交通ルール順守およびマナー向上を促進し、交通事故の防止と学生の安全意識の向上を図ることを目的とするものである。

期間中は4カ所の駐輪場で交通安全啓発チラシを配布。警察官やパトカーも来学し、学生に注意を呼び掛けた。警察署と大学が連携することで、自転車の安全利用や交通ルール順守について改めて意識を向ける機



10号館前でチラシを配布

会となった。学生からは、「交通ルールや青切符制度について確認する良い機会になった」「警察官から直接話を聞いて、安全運転の大切さを再認識した」といった声が聞かれた。